

四五〇年記念

古田織部正

家来 田中頼助

養老町室原にいた



(古田織部正重然木像・京都興聖寺蔵)



福源寺

養老町室原の福源寺

昔、室原は不破郡であった。水田沖を隔て南郡境の離れ島のような存在であって、安住の地ともいえるところである。聚落の中央に氏神熊野神社と隣合せに古い福源禅寺がある面積約五十アールの広い境内である。創立は過去帳に文明七（一四七五）年の法名がのっているものでそれ以前であろう。本尊は藤原時代作の聖観音で県の重文に指定されている。

室原は江戸時代まではこの福源寺を中心に武家や浪人、武士をやめた高持百姓等が集り住んでいる特異な農村聚落であった。

古田織部は天文十一年に土岐氏が滅びた後、天文十三（一五四四）年に本巢山口城で生れ、永禄十（一五六七）年に信長、天正十（一五八二）年に秀吉に従う。天正十八年頃は不破郡豊臣領代官として、不破郡に出入が頻繁になった、家来の田中頼助のいる室原にも寄ることが多くなっただろう。織部が一時、室原に居住していたことやその間に福源寺の檀那になっていたこともあるという文章も残っている。

発刊のことば

安土桃山時代の武人であり茶人である古田織部の出身地は岐阜県本巣郡本巣町なので県内の古田織部ゆかりの町村では生誕四百五十年を記念し色々な行事を行っている。養老町においても大茶会を催す予定と聞いている。

本町が、織部のゆかりの地であることは、戦国の世に織部の家来田中頼助が室原に居た関係もあって、織部がこの地に居住していたからであろう。

私は三十五年程前に室原史を作ったが、そのときの織部の勉強は不十分でした。その後多くの人によって調べられて、だんだん明かになってきたのである。特に県資料館長の丸山幸太郎先生の著書「古田織部」は参考になった。

私も織部と家来田中頼助の室原とのゆかりをまとめておく好期と思い、九十歳の高齢に鞭を打って、冊子にまとめることにした。田中頼助の子孫といわれる田中一統の方がたや室原の人は勿論のこと、多くの町民の皆様にご読んでいただけるならば幸である。

平成十一年秋

安福彦 七

目次

古田織部・家来田中頼助と養老町室原

- (一) 古田織部正という名前について
- (二) 何年にどこで生れたか
- (三) 古田織部の動き
- (四) 茶道の古田織部
- (五) 古田織部、家来田中頼助が室原に居住

古田織部正・家来田中頼助と養老町室原

(一) 古田織部正という名前について

古田重然を通常古田織部正と呼んでいるが、又、隠居してからは自ら「正」をつけずに織部とのみ書いたり、呼んだりした。信長が天正十年に本能寺の変で倒れて後、秀吉に仕えて、同十三年七月、従五位下織部正に叙任され山城国の西の岡城主三万五千石を支配した。その織部の正とは、大藏省所管の官司で綿・綾・紬・羅など高級衣料を織り、また染物を掌る役所の長官であって、この官職名から出た名前である、幼名、通称名は「佐助」、実名は「景安」^{かげやす} といふ重然と名乗った。

(二) 何年にどこで生れたか

美濃国山口城主古田重安の弟重定の子として天文十三(一五四四)年に生れる幼名佐介(佐助)、出生地の現在名は本巢郡本巢町山口という。

山口城跡。古くは梶原景時が在城したといわれる。その後、戦国、江戸時代初期には古田氏の居城であった。場所は権現山。

大藪は山口城主館跡と推定される(本巢町教

委調査)。千貫数ともいう。大字山口の字高崎に東西二〇〇m、南北一五〇mの竹林がある。山口の人は、それを「土居藪と呼んでいる。そして城主居館跡と推定した。

(三) 古田織部の動き

信長、秀吉、家康の三代に仕える。

年号 西暦 織部とその関係の動き

天文二一五四

高藤道三が土岐頼芸を攻め美濃を押領する。

三二五四

古田織部は山口城主古田重安の弟重定の子として生れる。

永禄二二五七

信長美濃平定。古田佐助は信長に従う。

二二五八

信長は足利義昭を奉じ入洛、古田佐助は従軍する。

三二五九

佐助・茨木城主中川清秀の妹せんと結婚、中川家の家老職を継続する。

天正六二五九

荒木村重叛乱に中川清秀が味方したので佐助は信長に味方するよう、ときふせる。

二二五二

本能寺の変後山崎合戦に中川軍に従い光秀を討つ。

二二五三

賤ヶ岳の戦いで中川清秀戦死。後継秀政の後見人となる。

三二五四

小牧山の戦いには秀吉に従軍する。

三二五五

根來、雑賀、四国攻に従軍する。従五位下織部正任官し、山城国西岡城主三万五千石の知行を受ける。

天正五二五七

秀吉の九州攻めに従軍。九月京都聚落第へ大阪城より移る。十月秀吉は北野

八一五〇 47

大茶会。利休・織部等大活躍。秀吉小田原攻め、関東従軍。八月利休と熱海入湯、九月帰陣。美濃国不破郡豊臣領代官として榎戸村へ十月、十二月今須妙応寺へ書状発行。

天正時代に於いて

古田織部の家臣田中頼助は室原に居住、福源寺の檀那、その時に織部が室原へ来て居住し福源寺檀那となる。この期間に福源寺再興に力をつくしたという。

文禄 一二五三 49

朝鮮出兵、秀吉九州名護屋へ行く。織部も秀吉に従がう。

三一五四 51

文禄三・二・十一日付(養老町室原福源寺過去帳)古田織部の家臣・春田院瑞中見龍居士・俗名田中頼助。

慶長 二二五七 54

第二次朝鮮出兵

三一五六 55

岡城主を妻子重嗣にゆずり茶道にはげむ。

五二六〇 57

関ヶ原戦争に織部東軍につく。田中頼助の妻子頼助は戦争に参加し年を経て室原へ帰る。

二〇二六五 72 織部切腹により没す。

(四) 茶道の古田織部

古田織部が茶の湯の世界へ入るのは、父重定の影響による。信長に仕えた頃から信長の茶会に出席。利休は織部の師であった。

秀吉時代は初めて賤ヶ岳の戦い後の茶会に出席している。家康時代は茶道の第一人者となって將軍の指導者も勤めるに至った。

織部は明るい華やかな多種多様な焼物で身分に上下なく、開放的合理的で自然のままを尊重した茶の湯を展開し桃山文化をリードした。

(五) 古田織部と家来田中頼助が室原に居住

(1) 室原に古田織部の家臣田中頼助が居住していた関係で織部もこの室原にしばらく滞在していた。次のような内容の古文書がある。

「美濃国の国司である土岐氏に仕えていた古田は土岐氏が天文十一年に滅亡後、天正年中に織部の家臣田中頼助も室原村に蟄居同じく織部も蟄居す。又その後茨木の中川清秀の家臣となり大坂へ移住する。後に田中頼助は室原に残り住む。その妻子頼助は慶長五年関ヶ原戦争に参加し西軍敗れ、退去してしばらく間を置いて室原へ帰る。その間の事は不明であるが古田氏当村に居住中当福源寺の檀那となった。今は岡城主の家老職である。先年旧縁の人がこの事を尋ね、又書面によって古田織部と田中氏のことがよくわかった。

慶応三丁卯中春吉旦 六十七雨景瑞 ㊦ 室原福源寺

(室原福源寺過去帳)
文禄三甲午二月十一日

春田院瑞中見龍居士 俗名 田中頼助 (古田織部家臣)

(2) 古田織部の家臣「田中頼助」の出处と子孫

養老町室原（昭和三十年町村合併、以前は不破郡）の福源寺の過去帳にのっている古田織部の家臣田中頼助が室原にいたことは明かである。天正十八年（一五九〇）織部が不破郡内、豊臣氏直轄地の代官をしていた（あるいは領主であった）関係で、主従関係ができたのか、それ以前から主従関係にあったのかわからない。

石津・多芸・安八に勢力を張る高木氏の配下に、田中真吉、木村十兵衛等がいたことは判明している（県歴史資料館資料）。口ヶ島には、慶長のころ田中彦七という武士がおり（養老町通史下）、牧田川流域の土豪・地侍の田中氏が織部の家臣であったかともみられる。

（この項、丸山幸太郎先生著、本巢町刊行「古田織部誕生四五〇年祭記念誌より」）

田中頼助は前述の過去帳によって室原に居住し文禄三年に没している。そして、その実子頼助は関ヶ原戦争の時退居し年暦を経て帰郷しているが、その後の様子はわからない。室原には福源寺近くに十数軒の田中姓を名乗る家がある。これを田中一統と称し、田中頼助の子孫といわれている。

(3) 「古田家物語」筆者 古田恒三氏

右の刷子を昭和六十年頃見たが最近では平成七年の丸山幸太郎先生著「古田織部」という本にも同じ内容のことが書かれている。それは「古田家物語」の著書古田恒三氏が室原福源寺を訪問した数日後、檀家総代と名乗る老人二人が来て、山門に一個の木像があり、その台座に「開基古田織部正」と刻んであったので大切に供養することにした。との報告を受けている。そのことを、二十数年後に確かめたく福源寺を再度訪れたが、すでにその木像の所在はわからなくなっていた。

まとめ

(4) 以上二つの文章の内(一)の方では、古田織部が室原に居た時に福源寺の檀那になっていたこと、又、(二)の「古田家物語」に於ては山門に古田織部の木像があつて、開基と彫つてあつたこと、さらに織部の家来田中頼助が室原に居住していたこと等を併せ考えると織部もここに住んでいたことも信じられる。その間に衰えていた禅寺を見て再興に貢献していたことも当然考えられるのではないか。

田中氏畧譜

土岐之幕府古田織部正王家没落後天
正年中古田織部正具臣田中頼助室原
卯同整居後古田氏大坂城主後見成彼
地移住又後茨木城主之家臣成古田氏
大坂移住之後田中頼助者室原卯殘住
居頼助實子頼助慶長年中關原合戰之
節退居年曆相隔歸鄉故往事不詳古田
氏當卯住居中當寺檀那今岡城主之家
老職也先年舊縁問尋之書等而田中氏
之家譜相分依而書記而親族授與

現福源

慶應三丁外中春吉旦

六七齡兩景瑞書



文祿三甲午二月十日

春田院瑞中見籠居士 俗名田中頼助

親族衆議窺觀音籤與末家絶依而書先祖法名

古田 織部正

安福 彦七

岐阜県養老郡養老町室原601

TEL <0584> 32-1698

印刷所 大野印刷所

住 所 大垣市中野5-371-1

TEL <0584> 78-7083